



4月15日号
地域連携室発行

退院後も

つながります

あなたの

こころとからだ

祝♪ T T A K新聞1周年



今年の桜も満開に終わり、私達の目を楽しませてくれましたね。さあ！心も身体もわくわくする季節の到来です♪あなたは、もうゴールデンウィークの予定は立てましたか？外に出て、いっぱいの日差しを浴びてみませんか？

我が、TTAK新聞はめでたく1周年！を迎えることが出来ました。これを記念してTTAK新聞を作っているこんな美女2人にインタビューしてきました。

TTAK新聞を作っているのはこんな人！

5病棟 湯口 弥生さん 三阪紗代子さん



Q：いつもカラフルで楽しい新聞ありがとうございます。まずは、自己紹介からお願いします。

湯：私は、播磨病院に就職して6年目になります。看護師になって17年です。始めはパートで内科外来に配属されて現在5病棟で三交代しています。

三：私も播磨病院に就職して6年目になります。現在、湯口さんと同じ5病棟に勤務しています。

Q：TTAK新聞に関わるようになったいきさつは何ですか？

湯：TTAKメンバーになってからしばらくしてTTAKのチェアマンのS先生に『コメディカルの資格を広報するものを作りたいんだけど、見栄えよく・派手に・読みやすい・新聞みたいな形で作ってもらえないかな？』と頼まれたのがきっかけです。

パソコンを触るのが好きでしたし、そういうものでパソコンを使えば使うだけ上手くなるものかな？と思って引き受けました。

三：私は、5病棟のもう一人のTTAKメンバーが異動になって後任を任されました。その時に、『湯口さん一人だと大変だから助けてあげて』と言われて引き受けました。パソコンも上達したいと思いましたし…。

Q：TTAK新聞の発行の目的は何ですか？

湯：発行のお手伝いを頼まれた時は『宣伝』という事しか聞いていないように思うのですが作っていて思ったのは…

*院外に対しては『播磨病院のコメディカルにこんな資格を持った人がいる。こんな学会で発表した人がいる。というのを知ってもらう事で安心して病院を利用してもらうことが出来るのではないか』というのと…



* 院内に対しては『院内にこれだけ頑張っている人がいるというのを知ってもらい自分もやってみようかという人の参考になり意欲を高めることができる』それが病院全体の活性化にも繋がるのかなと考えています。

Q：新聞のレイアウトや色使いなどデザインなど毎回好評ですがどのように作っているのですか？

湯：好評なんですか？うれしいです。

作る時に気をつけているのはその月の行事など季節感を出すようにイラストを取り入れて作っています。又その季節やインタビューを受けてくださった人のイメージを出せるように色使いに気をつけているつもりです。

三：私はまず、見た目に息苦しくならないように、行間がつまらないように気をつけているつもりです。

そして、読んでいて楽しくなるような新聞にしたいと思っています。

それから、写真を撮るときにも自然体で撮れるように気をつけているつもりです。

Q：TTAK新聞の作成に関して苦勞はいかがですか？

三：私は、パソコン初心者なので、いつも湯口さんに教わりながら作っています。イラストの入れ方から分からなかったもので、初歩の初歩からです。

湯：私もパソコンの達人ではないので、分からないことも多いのですが『新しいこと発見！』ということもあり、楽しんで作らせて頂いています。新聞の内容としてはもっと掘り下げて聞きたいと思うことがあっても、他部門の事だと分からないことが多いので何を聞いたらいいのかも分からない…ということもあり『もっと勉強しないといけないな〜』と思うところです。

三：私は、学会発表の時の裏話なんかをもっと聞いてみたいと思います。

Q：TTAK新聞を作るにあたっていろいろな苦勞をされているのですね。では、最後に新聞作成を通じての感想をお願いします。

湯：新聞作りをさせていただいて、いろんな資格のことを知る機会になりました。


自分とは関係ないと思っていた資格でもインターネットなどで調べていて、全く関係ないということではなく反対にもっと知っておかなければならない事かも…と感じる事もあります。エキスパートにはなれませんが、いろんなことに興味を持って勉強することが必要だと感じさせられています。

三：私は、新しく勉強したいと思っていたパソコンを湯口さんのお陰で少し出来るようになったことをとてもうれしく思っています。性格的に追い込まれないとしない方なので、こうやってパソコンを使うことを与えられてよかったと思います。

今後もパソコンの師匠である湯口さんに教えてもらいながらTTAK新聞作成に頑張りたいと思います。

湯口さん・三阪さんありがとうございました。

さて、私も今月から2人の指導を受けながら院内の活性化に繋がる楽しい新聞と一緒に作っていきたいと思います。みなさんこれからもよろしくお願ひします。次回は医事科 中津 純子さんの『静脈経腸栄養学会での発表について』です。

お楽しみに 



T・TAK新聞のバックナンバーは、播磨病院ホームページ
<http://www.harima-hp.jp/main.htm>からご覧いただけます。